

日刊工業新聞

平成22年 2月 3日 (水)

経営教室

私は、歯科医院でのチームづくりの仕事をしている。実に女性が多い。国家試験合格の女性歯科医師は、34.5%前後（2008年）で年々増加傾向にある。勤務している歯科衛生士・歯科助手・受け付けとなると、99%は女性である。ほかにも、女性が多い職場はいろいろあろうが、典型的な女性の職場である。

さて、歯科医療界には、いま大きな不安感がある。それは、歯科医師過剰時代を迎えたという点においてである。65年（昭40）当時、厚生労働省は、人口10万人当たり歯科医師数50人を政策目標として掲げ、歯科医師の育成を図ってきたが、すでにその数77.9人。全国の歯科医院数は、6万8000（09年8月医療施設動態調査）を超えた。今や、コンビニの1.5倍の数である。

しかし、自信を持って国民に説明しなければならない。日本の歯科医療は、虫歯予防に成功した。12歳時の虫歯に

組織的な戦略経営のあり方

経営士の 提言

かかっている平均本数は、わずか1.8本である。3歳時で虫歯が全くない子は、7割に達する。歯周病の予防や治療する技術も、確立されている。

そこでチームづくりを行い、「地域の皆さまに一致団結して最善の歯科医療サービスを提供していこう」と呼び掛けている。個別に対応するコーチングに頼らず、組織として動くアンゾフの戦略経営の流れを忠実に守り、理念による創造型の経営を提案している。女性が多い職場であっても、基本は同じである。

使命ともいえる理念を、院

長につくり上げてもらう。そのためには、生まれてきて関わってきた方々や、人生の岐路に立った時のことを振り返り、自分を見つめ直す。字のごとく、命を使ってまでも今後やるべきことを覚悟する。その後、組織としてのビジョンを掲げ、目標を明確化し、外部環境や内部環境（経営資源）を確認し、中期・短期の計画を立てて、適材適所で人を動かす。その上で、PDCAサイクルで改善を繰り返す。

仕事の基本は「5S」であり、仕事の「見える化」にある。基本的なことをいかに継続して行うか。要は、女性の集団であっても、「仕事のしぐみ」をどのようにつくるかである。

（日本経営士会・小原啓子、082・294・1845）

女性の職場でも基本は同じ／仕事を「見える化」し改善重ねる